

—集会日程—

9:00	10:00	10:25	11:45	12:15	13:15	14:15	15:50	16:00
受付	開会行事	講演	語る	昼食	講演	講演	閉会行事	

—集会内容—

9:00～

【受付開始】

10:00～10:25

【開会行事】

◇実行委員長あいさつ

◇来賓あいさつ、紹介

10:25～11:45

【講演】

「身元調査事件の歴史、そして今」

(社) 部落解放・人権研究所理事 **友永 健三**さん



1872 (明治 5) 年、「壬申戸籍」が編成、それ以降部落差別で多くの若者の命が奪われた。1968 (昭和 43) 年に差別戸籍廃絶運動が盛り上がり嚴重保管に。しかし、1975 (昭和 50) 年に「部落地名総鑑」差別事件が発覚、今日電子版が回収されている。近年、行政書士等 8 業士による戸籍謄本等不正入手事件 (プライム事件など) が相次ぎ、「本人通知制度」導入が拡大してきている。「身元調査」は方法を変え続けているが、差別とその撤廃運動の歴史と現在の課題を考える。

11:45～12:15

【語る】

「部落を生きる」

当事者から

できることなら「言いたくない」自分のこと、なぜなら差別があるから。でも差別があるからこそ「伝えたい・わかってほしい」。「部落差別はもうないのでは…」という人たちに本当のことを伝えようと思う。自らの被差別体験、その時何を思い、どう歩んだか。そして今…「部落を生きる」。

12:15～13:15

【昼食】

13:15～14:15

【講演】

「島崎藤村『破戒』と部落問題」

—長野県水平社創立の地、「惟善学校」にもふれて—

小諸市教育委員会教育長 **柳沢 恵二**さん



1906 (明治 39) 年に島崎藤村が『破戒』を自費出版。藤村に執筆のきっかけを与えた小諸の「部落」。『破戒』の着想や藤村とその時代の差別意識、『破戒』がもたらしたものは何かを、「惟善 (いぜん) 学校」(貧困と差別のため学校に通えない被差別部落の子どもたちの学校) のこと、1922 (大正 13) 年、小諸で結成された長野県水平社にもふれ、改めて私たちに求められているものを問いかけます。

14:15～15:50

【講演】

「人権文化豊かなまちづくりに向けて」

—阪神・淡路大震災が教えたもの—

全国隣保館連絡協議会常任顧問

中尾 由喜雄さん



阪神・淡路大震災で、地震直後から避難所となった私の隣保館では、同和地区内外の住民 400 人と聴覚障害者 7 人が数ヶ月にわたって生活を共にしました。“同和問題の解決”、“人権の尊重”の合言葉が、非日常の中でどう活かされたのか? いくつかの出来事を通して考えてみます。

15:50～16:00

【開会行事】

*** 特設展示 ***

「長野県水平社 及び 惟善学校に関わる資料展」

展示場所: 展示ホール



〈在りし日の惟善学校〉



〈惟善学校跡地〉